

調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670103094
法人名	(有)コウライメディカル
事業所名	グループホーム しらゆり
所在地 (電話番号)	鹿児島市高麗町21-19 (電話)099-251-6633

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島県鹿児島県真砂本町21-5前田ビル1F
訪問調査日	平成19年6月5日

【情報提供票より】(平成 19 年 5 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	6.3 人

(2)建物概要

建物形態	単独		
建物構造	鉄骨造り		
	3 階建ての	1 階 ~	3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(200,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(5 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 87 歳	最低 79 歳	最高 92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	・肥後クリニック ・中央病院 ・玉利歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市内の中心部の交通に便利な住宅街に建っている。施設は鉄筋3階建てで、1階に玄関・食堂・リビング、2階・3階に居室、お風呂は2階にあり、エレベーターが設置されている。近くには中学校・鍼灸の学校があり、生徒たちや若者たちの元気な声が聞こえてくる。ホームを一步出ると、歴史ある町内会に買い物しやすい店舗が並び、隣人も身近で挨拶を交わすことも多く、利用者が地域で生き生きと暮らして行ける環境にある。まさに地域密着型サービス機能を進めていくに相応しい立地条件である。管理者はじめ職員は、利用者に安心して過ごせる満足のもらえるケアを提供していること、意欲的に介護技術の向上と地域とのふれあいに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善課題が3項目あり、①鍵をかけないケアの実践では、2階にある風呂の入浴時は、職員の見守りの連携が不十分になりがちなことから、家族の理解を得てこの時間に限り施錠をしている。②衛生管理は、マニュアルとチェックリストを作成している。③地域とのふれあいは、町内会に入り行事へ参加し、顔見知りの方々からは認知症の相談を受けたりしている。老人会とも交流していきたいと加入の打診をしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は運営者・管理者だけで行うのではなく、自らのケアを振り返る契機となるように、職員全員で取り組みサービス向上に役立てている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議では外部評価や運営状況の報告に留まることなく、出席者から地域の方々との交流を目的に、年間行事へのアイデアが出される等、運営やサービス提供への意見が出され、サービス向上に役立てている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年2回の家族会・2ヶ月1回の運営推進会議への参加をお願いし、一人でも多くの参加者の下、ホーム運営についての意見をもらうことや面会の際、ホーム側がすすんで声を掛けて家族の意見・不満・苦情を聞き対応するよう努めている。出てきた意見等は運営者・管理者・職員で検討し対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩や病院往復の際に近所の方々や挨拶や言葉を交わし、馴染みをつくっていくことを心がけ、町内会へも加入し町内行事へ参加するなど、積極的に関係づくりをしている。そんな中で地域の方々から認知症やその介護について尋ねられ、相談にのっている。今後はホーム行事へ招待していきたいと考えている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者が住みなれた地域で生きがいのある暮らしが安心してできるよう支援する」として、利用者の気持ちに寄り添い、本人・家族の訴えにゆっくり傾聴し、深く理解するように努めている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ネームプレートの裏に理念を明示し、申し送りや定例会・研修会でも、理念の実践について話し合っている。しかし、最近、職員交代があり、理念の理解・共有はできていない。	○	事業所で働く職員一人ひとりが、事業所の理念の中身を知っており、何を大切に利用者と向き合うか確認されていることが大切です。職員採用時には必ず理念を伝え、理解してもらうように努めて欲しい。
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へ加入し地域行事へ参加している。高齢者クラブへも加入し交流をしていきたいと考えているが、まだ理解がえられていない。ボランティア活動で地域の方々に訪問してもらい楽しい交流がある。今後とも積極的に働きかけ、地域とのつながりを深めようと取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は定例会で報告し、サービス提供のあり方を反省し、改善に向けて具体的に検討し、実践に取り組んでいる。自己評価は管理者だけが行うのではなく、職員全員で取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の議事録の検討事項や懸案事項について、その後の取り組みの経過を報告し、話し合いをもってサービスの質向上を図っている。参加者から、外部の視点をとおした運営やサービス提供への意見がもらえるので大いに活用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所からの情報提供を行ったり、サービスのあり方や考え方を共有したり、運営で生じる課題を一緒に解決したりという立場での関係づくりはできていない。	○	事業運営やサービスの課題の中には、市町村との協同で解決に導くことも多いと考えられることから、市町村担当者へ事業所の考え方や実態をよく知ってもらえるように、積極的に関係づくりに努めて欲しい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月しらゆり通信にて、請求書と利用者個々の近況や健康状態の報告を行っている。金銭出納帳の写しを2ヶ月1回、利用者家族の全世帯へ送付している。職員交代の報告は面会時に紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に家族に問いかけている。出された意見・相談については、代表者・管理者・スタッフなどで話し合い、サービスに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者・職員の半数以上が交代していたが、利用者が混乱のないように、個々の利用者の情報把握とコミュニケーションを図っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修計画は作成しており、外部研修へも参加できる環境をつくっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム4箇所の管理者同士の交流会・定期的な連絡会があり、職員参加の基礎研修会も定期的に計画している。その他の同業者との交流は、管理者が研修など知り合った方と連絡・情報交換をしている。全国・地区別のグループホーム協議会へは加入していない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人本位で利用決定が行われることを大事に、本人・家族のホーム見学や、管理者が病院・家庭を訪問するなどを通して、納得・馴染みを持ってもらうよう工夫している。また、その準備のできない時は、入居後しばらく家族や馴染みの方々に頻りに面会してもらい、安心して早く馴染めるよう努めている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	馴染みのある物を、本人の経験などに応じて提供し、活動意欲や生きる喜びを感じてもらえるようにしている。例えば、食事の準備・洗濯物たたみ・片づけを一緒にする中で、同じことをして同じように感じるなど、心の中にある喜び・期待感・不安・悲しみ・苦しみ等の感情を受け止めて、暮らしの中で思いを分かち合える関係を目指している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の思いや希望をよく聞き、話し、表情の観察など言葉以外の訴えにも心で受け止めている。日常の会話の中にどここのラーメンを食べたい、山形屋で買い物したい等の希望が出ている時は、家族と相談して実現するように、介護計画にあげて実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及び家族の意向を聞き取り、家族出席の下でケア会議を開き、職員や関係者が意見を出し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月職員間で、利用者の介護計画のモニタリングを実施している。計画見直しは、本人及び家族の意向や毎月のモニタリングの結果やケース記録などから、サービス担当者会議を開いて3ヶ月毎に見直しを実施している。見直し前に状況の変化があったら、その時点で柔軟に臨機応変な対応をとっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に応じて病院受診の送迎などを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望をきいて、事業所の協力医だけでなく、利用前からのかかりつけ医の診療が受けられるように、納得の得られた病院と事業所の関係を築きながら受診の支援をしている。現在協力医以外のかかりつけ医の利用者は一人である。他疾患受診は、本人・家族の了解のもとで協力医からの紹介で受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のケア指針を定めて、家族・医師・看護師を交えて話し合いを持っており、職員研修で考えやケアについて学び、意見の統一を図っている。利用者の状態変化が見られたら、家族の意向や気持ちの変化に注意して、関係者との綿密な連携をとって支援につなげている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	定例会・研修会などの度に、個人情報の保護・秘密保持の意識向上を図り、排泄介助の研修は年に1回必ず実施して、利用者のプライドを損ねない介護を提供できるようにしている。また管理者は、日々のケアの中でプライドやプライバシーを損ねるようなケアがないか注意をはらっている。個人の記録物は、利用者の目に入らないように取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一定のスケジュールに無理に合わせるのではなく、利用者一人一人のその日その時の体調・思いなど、希望に合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好物や希望を取り入れて、旬の食材でメニューを工夫して食事を楽しくしている。また盛り付け・配膳・下膳・食台拭き・片付けなど、できるところを一緒にして食事への関心を引き出している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	仲良し同士入りたい方・ゆっくり入りたい方など、利用者の希望を聞きながら、入浴時間にとられず、個々の気持ちや習慣に合わせて支援ができるように、職員のローテーションを工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の個々の希望を聞いたり、過去の経験・生活歴を考慮して、利用者のできそうなこと(調理の下ごしらえ・雑巾作成・食事前の挨拶など)をお願いして、本人の役割自分らしさを見出せるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の殆どが病院のリハビリに通っており、そのほか、天気や本人の気分に合わせて散歩・買い物に出かけ、気分転換でストレスをためないように配慮し、五感で季節を感じてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前に外部者の侵入があったことから、防犯上、オートロックの施錠になっている。この点について家族会の中で話し合い、日中は施錠をせず自由な暮らしを見守るために、二重ドアの外を開放状態にし、また入浴介助時、スタッフの見守りできないときは施錠し、家族面会者へはチャイムを鳴らしてもらうようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火訓練を年に2回実施し、避難誘導の実地訓練をしている。職員への緊急通報システムも整備している。地域の協力依頼も運営推進会議で呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量・栄養・水分が摂れているか、それぞれのおおよその量を把握し、業務日誌に記録をとっている。法人内の管理栄養士の献立指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るくて騒音も少なく、食事中は音楽が流れ、リビングは語らいの場としてゆったりと思いきいの過ごし方をしている。畳の間には仏壇や神棚があり、毎日拝んでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使い慣れた家具や好みの物が家族によって持ち込まれ、家族の写真や手作りの作品が飾ってあり、居心地よく過ごせるように工夫している。		